

岡富中学校の「カラミレンガ塀」に係る耐震補強工法の

見直しについて（概要）

岡富中学校の「カラミレンガ塀」は、大正4年2月に建造され、100年以上ものあいだ、市民の皆様に親しまれてきました。

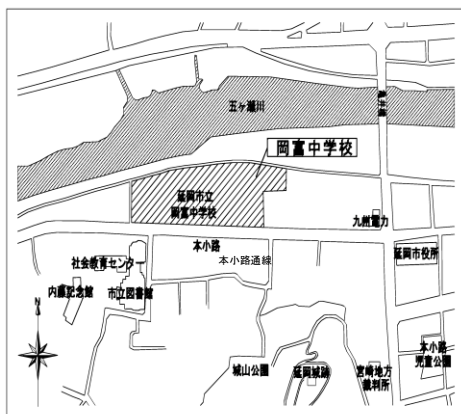
延岡市教育委員会におきましては、その保存の可能性や方法等に関し、専門的な知見を有する機関に調査を委託したところ、現状のままでは建築基準法が定める耐震基準を満たしていないことが判明したため、補強方法の案とともに、令和3年2月から3月にかけて公表した結果、市民の皆様からは「カラミレンガ塀」の保存に賛成するとのご意見を多数いただいたところです。

それらのご意見も踏まえたうえで、当該地区が延岡市景観条例における景観形成重点地区（城山周辺地区）に指定されていることから、「カラミレンガ塀」のある現在の景観を維持することを重視するとともに、工事のし易さ、費用及び維持管理費等を考慮し、「コンクリートによる補強」により適切に維持保存する方針のもとで実施設計（詳細設計）を行ってきました。

その過程において、地盤の状況を詳細に調査したところ、この度、耐震補強の工法を見直す必要があることが確認されましたので、このことについて改めて公表し、再度広く市民の皆様のご意見を募集します。

<カラミレンガ塀の概要>

名称	: 岡富中学校 カラミレンガ塀	塀の長さ	: 122m
所在地	: 岡富中学校敷地 南側道路沿い	塀の高さ	: 歩道側 2.1m 学校側 1.16m
築年数	: 大正4年（1915年） 築107年	基礎	: 礎石建ち
構造	: 煉瓦造		



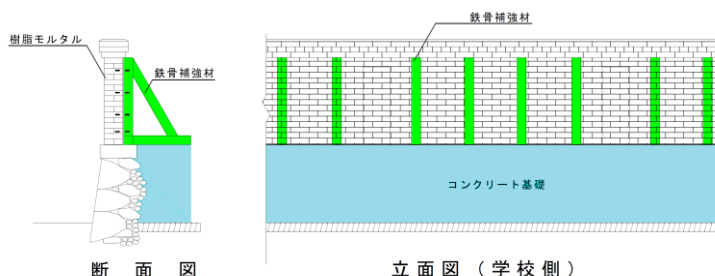
付近見取図



写真 カラミレンガ塀

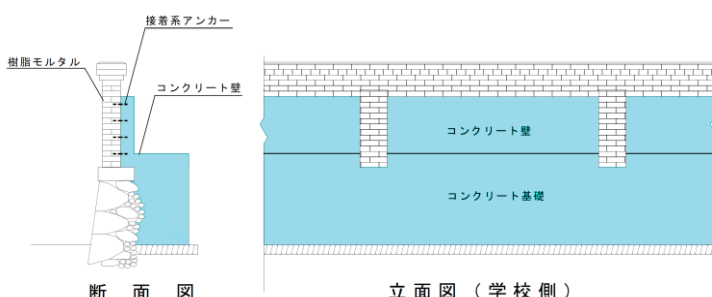
【前回 パブリックコメントにおける補強工法案について】

【A案】鉄骨部材による補強



- ・鉄骨部材を設置し支えにて補強する。
- ・既存のレンガ塀の不陸に合うよう鉄骨部材を設置する必要があるため、工事の難易度が高い。
- ・鉄骨部材で部分的にレンガを支えるため、目地補修やレンガの部分積み直しが必要となる
- ・概算工事金額
78,000 千円

【B案】コンクリートによる補強



- ・コンクリート擁壁のように裏側で補強する。
- ・一般的なコンクリート擁壁と同様の工事方法で施工可能なため工事の難易度はA案より良い。
- ・コンクリートの壁で「面」でレンガ塀を支えることができるためレンガ目地の補修程度ですむ。
- ・概算工事金額
40,000 千円

※上記A案及びB案の概算工事金額は、前回のパブリックコメントでの概算金額から実施設計に掛かる費用（10,000 千円）を除いています。

【耐震補強以外】

塀のイメージ



資料) 国産木材を活用した塀等の設置ガイドライン 2020/04/01 (東京都)

- ・レンガ塀を耐震補強せず、既存のレンガ塀を撤去のうえ景観に配慮した木塀を設置する工法
- ・木塀の仕様
柱部：亜鉛メッキ
木板：桧（木材保護塗料塗）
木板の耐用年数 20 年
- ・概算金額
60,390 千円（既存レンガ塀の解体処分費 22,000 千円 他含む）
【維持費】（20 年間毎）
30,188 千円（塗装の塗り直し、木板の取替）

<カラミレンガ塀の保存について>

当該地区は延岡市景観条例における景観形成重点地区（城山周辺地区）に指定されています。そのため、カラミレンガ塀のある現在の景観を維持することを重視し、工事のし易さ、費用及び維持管理費等を考慮し、耐震補強案の「B案」にてカラミレンガ塀を適切に維持保存する方針とします。

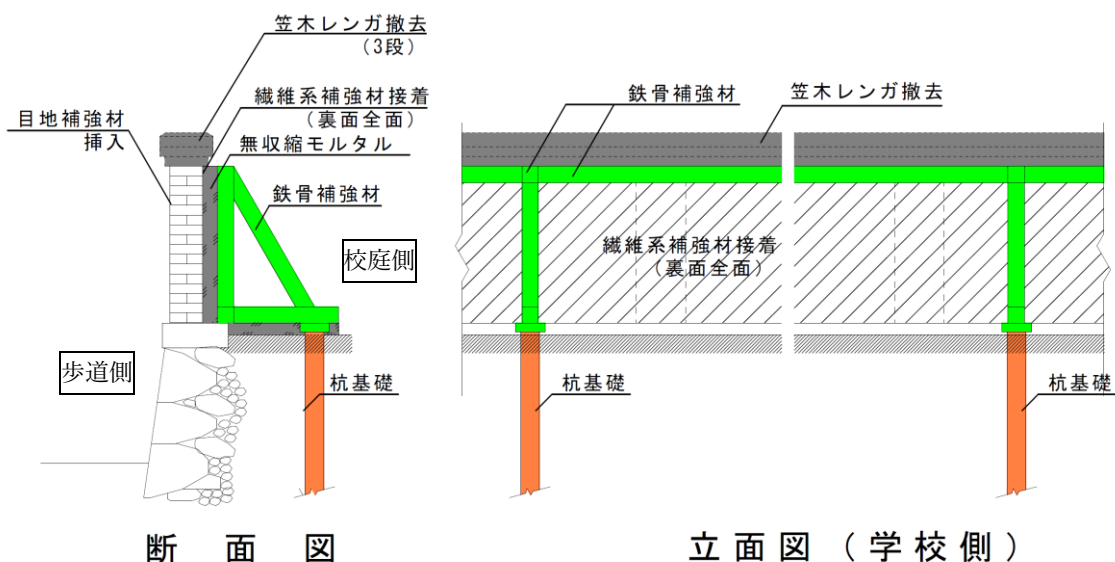
【補強工法の見直しについて】

実施設計において、詳細な地質の情報を得るためにレンガ塀付近の地盤調査を行ったところ、軟弱な地盤があることが確認され、「【B案】コンクリートによる補強」ではその自重により沈下してしまう恐れがあることが判明しました。

このことから、より軽量の補強工法として、「【A案】鉄骨部材による補強」を基にコンクリート基礎を杭に見直し、更に既存レンガ塀の笠木部分を撤去して全体を軽量化した【C案】による補強工法を新たに採用します。

なお、【C案】の概算工事費については、【A案】と同額の78,000千円になります。

【C案】鉄骨部材による補強（杭基礎）



<各工法の概算工事費 比較>

(千円)

基本設計		実施設計
A案	B案	C案
78,000	40,000	78,000